

集 会 ア ピ ー ル (案)

2011年3月11日の東日本大震災、福島第一原発事故からやがて1年。原子力に依存したエネルギー政策の過ちは、はかり知れない放射能被害を生みだし、その苦しみは今も深刻な事態をもたらしています。

放射能の汚染は、大気や水、土壌に多大な影響を与え、農畜産物や海産物などへ広範囲に広がり、私たちは、今後長きにわたり放射能汚染と対峙しなければならない現実を突きつけられました。とりわけ、放射線の影響を受けやすい子どもたちは、健康と生命(いのち)の危険にさらされています。

原発事故によって、生活の基盤を失い、雇用を失い、放射能汚染で故郷を失う現実に、私たちは、原発を財政危機に苦しむ地方に押しつけ、経済優先の中で推進してきた政策を転換させ、これからの社会のあり方や自らの生き方を問い直さなければなりません。

しかし、福島原発事故を忘却の彼方に追いやり、経済を優先し安全性をないがしろにする「権力」が、定期検査中の原発の「再稼働」へ走らせています。

福島原発事故で日本の原発の「安全神話」は崩れました。私たちの命と暮らしを守るために、今こそ、脱原発を実現し、風力や太陽光など北海道の豊かな自然を生かした再生可能なエネルギー中心の社会をめざさなければなりません。

「放射能がなくなりますように」、福島の子どもたちが七夕の短冊に託した願いです。今を生きる私たちには責任があります。

北海道から発信します。

子どもたちの未来のために、脱原発を実現しよう！

一人ひとりの命に寄り添う社会を創ろう！

社会のあり方、そして、自らの生き方を問い直そう！

そのためにも、

すべての原発をなくそう！ さようなら原発！

2012年 2月18日

全国一斉・さようなら原発1000万人アクション IN 北海道